学位論文審査の結果の要旨

<p>1. 申請者氏名</p>	<p>西田 裕明</p>
<p>2. 審査委員</p>	<p>主査：（兵庫教育大学教授） 井澤 信三 副主査：（岡山大学 教授） 大竹 喜久 委員：（兵庫教育大学教授） 宇野 宏幸 委員：（兵庫教育大学教授） 石倉 健二 委員：（上越教育大学教授） 村中 智彦</p>
<p>3. 論文題目 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児における「アニメーションセルフモデリング」適用による家庭生活スキルの指導研究</p>	
<p>4. 審査結果の要旨</p> <p>先端課題実践開発専攻先端課題実践開発連合講座 西田裕明 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和4年2月23日（水） 15時00分～16時40分 場 所：オンライン（Zoom）</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>本論文は、以下に示す全6章から構成された。第1章は本研究の背景と目的、第2章から第5章までは、単一事例研究法を適用した4つの指導研究であり、第6章は総合考察であった。</p> <p>第1章 研究の背景と目的 第2章 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症の生徒へのアニメーションセルフモデリングを用いた掃除スキルの指導研究- 長い行動連鎖の獲得と般化の検討- （研究1） 第3章 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症の児童生徒へのアニメーションセルフモデリングを用いた電話の応対スキルの指導研究- コミュニケーションを伴うスキルの獲得と般化の検討- （研究2） 第4章 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症の児童へのアニメーションセルフモデリングを用いた手洗いスキルの指導研究- スキル遂行における丁寧さの向上の検討- （研究3） 第5章 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症の生徒へのアニメーションセルフモデリングを用いた行動問題低減についての指導研究- 家庭生活スキル遂行中に生じるこだわり行動の抑制の検討- （研究4） 第6章 総合考察</p>	

第1章では、研究の背景と目的を以下のように示した。知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症（以下、ASD）児が家庭生活スキルを獲得することは、生活の質の向上や家族の負担軽減などに意義があり、多くの指導研究が行われてきた。先行研究では、ASDの強み（視覚的な刺激に対する反応性の高さや興味・関心に基づくこだわりなど）を活かした支援方法が用いられてきた。その中で、複雑なスキル指導には、ビデオモデリング（他者モデル）やビデオセルフモデリング（自身モデル：以下、VSM）があり、特に、VSMは参加児自身がモデルであるため親和性が高く、スキルの獲得に一定の効果が示されてきた。一方、ビデオ製作の負担や製作時にスキルが獲得されてしまうことが予想され、VSM単独の効果を測定することの困難さが示唆されてきた。この課題に対して「アニメーションセルフモデリング（Animation Self Modeling：以下、ASM）」を考案した。ASMは、参加児がモデルとして登場するアニメーション動画を本人に視聴させ、それを手がかりに行動獲得を図るものである。ASMは、“Microsoft PowerPoint”を用いて、対象児の顔写真をイラストの体に貼りつけることで製作できる。そのため「製作上の負担と対象児への負担が少ない」「標的行動に必要な情報の提示を調整・操作できる」といった利点が考えられる。本研究では、知的能力障害を伴うASD児の家庭生活スキルにおける行動連鎖の獲得と一般化に対して、ASDの強みを活かしたASMによる指導を行い、どのようなASM教材の工夫や改良、提示方法が効果的かについて検討することを目的とした。

第2章（研究1）では、知的能力障害を伴うASDの生徒1名に対して、家庭場面で求められる掃除スキルといった長い行動連鎖の獲得と一般化について、ASMを用いた指導の効果の検討を目的とした。課題分析とアセスメントを通じて、参加生徒の課題に対応した工夫をASM教材の中に取り入れ、ASM映像を製作した。指導の結果、掃除の手本を直接観察する手続きより、ASMを視聴する手続きの方が掃除スキルにおける行動連鎖の獲得と一般化に効果がみられた。

第3章（研究2）では、知的能力障害を伴うASD児2名に対して、コミュニケーションが含まれる行動連鎖としての電話の応対スキルに対するASMを用いた指導では、参加児の誤反応や無反応に対応したASM教材の修正や提示方法の変更を取り入れる介入パッケージを適用した。結果、参加児2名は、電話の応対スキルを獲得でき、一般化テストでも標的行動の達成率が100%であった。参加児の誤反応に対応したルール提示、行動遂行の直前に部分的にASMを提示する方法への変更は、手本モデルの提示より、コミュニケーションを含む電話の応対スキルの獲得と一般化に効果的であった。

第4章（研究3）では、手洗いはできるが「丁寧さ」が十分ではない知的能力障害を伴うASD児1名に対し、課題分析に基づき製作したASM教材を視聴し、新しい生活様式に対応した丁寧な手洗いスキルの獲得と一般化について検討した。指導では、行動のつながりに着目した課題分析を行い、スキルの遂行順序、参加児の強みの活用した歌入りASM教材を製作・活用した。その結果、歌入りASM教材の視聴により、標的行動を正確に遂行できるようになり、標的行動を獲得・一般化した。

第5章（研究4）では、家庭生活スキルの遂行中に行動問題が生じる知的能力障害を伴うASD児に対して、参加児自身の強みであるCI（Circumscribed Interest）を取り入れたASM教材を製作し、行動問題の抑制と望ましい行動への効果を検討した。アセスメントの結果、行動問題の機能は感覚刺激であると同定され、参加児のCIを取り入れたASM教材を一日1回視聴する手続きを実施した。その結果、行動問題は抑制され、それに代わる望ましい行動が増加したことが示された。

第6章（総合考察）では、各章におけるASMの基本要素と、つまずきに対する改良と提示方法について総括した上で、ASMが教育現場などで活用されるための製作方法とについて述べた。

2. 審査経過

(1) 研究目的と論文構成の整合性について

本論文では、第1章にて、ASDの強み（視覚刺激に対する応答性の高さ、及び限定された興味関心の強さ）を活かす指導方法として、ASMの可能性を示した。特に、モデルがセルフであることの行動遂行に対する動機づけを高める効果や、スキル獲得に対するアニメーション制作の修正・改良等が容易であることであった。このことにより、どのようなASM教材の工夫や改良、提示方法がより効果かを検討することが目的であった。それに対して、4つの事例研究（第2～5章）において、スキルとしての行動連鎖の獲得に効果的に作用したASM教材の修正・改良等の要素として、以下のようにまとめられた。まず、ASMを構成する基本の要素として、「モデル（自身）であること」「標的行動の遂行に必要な情報のみに限定すること（背景の簡略化や余計な情報の削除など）」「場面（コマ）に一つの標的行動を示すこと」としてまとめられた。次に、ASMによるスキル獲得の効果を高める要素として、「標的行動に対する簡潔な文字と音声情報の付加（第2章）」「つまづきやすい箇所へのルールの提示（第3章）」「スキル遂行直前の部分的なASMの視聴（第3章）」「本人の興味を活かした歌やフレーズの導入（第4、5章）」「好みなことや興味のあることを取り入れたASMづくり（第5章）」として整理された。これらのことは、研究の目的に対応したASMの工夫や改良、提示方法を示すことができおり、その論文全体としての整合性も保障されていると評価できる。

(2) 学位論文としての独創性と発展性について

本論文の独創的な点として、従来からのセルフビデオモデリング技法をベースに、本人の顔写真を取り入れたアニメーション教材を開発した点、及びそれを用いて事例研究によるデータに基づいた効果を示しているところにある。特に、ASM映像（教材）を視聴するのみでスキルの獲得に至る可能性が示された点や、ASM映像（教材）を視聴することが自己教示として機能する可能性が示唆された点は、意義ある知見として評価できる。研究としては、モデルが自身であることの意義や必要性、ASMの効果を高める機序、より効果的なアニメーション教材の制作の検討といった発展性も見据えられる。一方、実践としては、モデルがセルフであることに限定するのではなく、児童生徒の実態に応じた親和性の高いモデルを取り入れながら、その効果を高める要素を明らかにしていくことも展開として期待される。

(3) 学校教育の実践への貢献について

本論文では、知的能力障害やASDを有する児童生徒におけるASMによる獲得と般化へのデータに基づく効果が示されている。学校現場では、このようなデータに基づく、デジタル教材の開発が期待される状況にある。今後、特別支援学校等での実践において、ASMの制作及び指導への導入を普及していくことが求められる。本論文の総合考察では「ASM制作・活用のポイント」をまとめており、実際に、教員を対象とした研修会等において公開し、その普及にも取り組んでいる。特別支援学校での実践に取り入れられ、さまざまな障害のある児童生徒や標的行動に適用され、実践研究としてのデータが蓄積されていくことが期待される。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 西田裕明 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。